



令和7年度 感染症講演会



実施日時	令和8年1月26日（月曜日） 14:00 ～ 15:30
会場	WEB形式（西多摩保健所 A会議室）
テーマ 背景	「知っていれば怖くない～疥癬の基本と対応のポイント～」 近年、東京都全体で高齢者施設を中心に疥癬の集団感染が増えている。管内には高齢者施設、障害者施設、病院等多くあり、2024年以降、各施設からの報告数が多くなっている。疥癬の感染拡大を防止していくためには、現場での早期発見と対応が重要である。
参加者	管内高齢者施設、障害者施設、医療機関、在宅関係者等 約60名
内容 講師	1 内容 (1) 感染症に関する情報提供 西多摩保健所感染症対策担当 (2) 講義 「疥癬の基本的な知識と対応」 公立阿伎留医療センター 皮膚科医長 新田桐子医師 「環境面からみた疥癬の対応」 西多摩保健所環境衛生担当 (3) 事例報告 「疥癬集団発生時の対応と連携、今後の課題」 特別養護老人ホーム 神明園職員
アンケート 結果 まとめ	今回はWEB形式で講演会を開催、当日のキャンセルや講義中の途中退席はなく、約60名が受講。事前の連絡や日々の感染症発生時の調査では、「疥癬をうつされた」、「医療機関へ受診していたのに診断してもらえなかった」等の思いが切実であった。 講演では、新田医師からは、疥癬の診断の難しさや、日々接している職員の気づきが大事であること、また、施設職員からは、診断が遅れたことによる感染拡大、終息までに苦労した体験談等リアルな話があった。 質疑応答では、講師と受講者との間で、今後の対応について、時間いっぱいまで活発なやり取りが行われた。 受講後のアンケートでは、「診断が難しいことがよく分かった」、「現場の職員が疑わしいと思ったら感染対策をしっかり行うことが大事」、「現場で今後実践する上でとても参考になった」、「研修内容を職員間で共有し、いざという時に対応できるようにしたい」等、今後の対応につながる意見が多かった。 各施設の職員一人一人が疥癬を疑う症状に早期に気づき、治療につなげること、施設での早めの感染対策を行うことにより、流行している疥癬を減らしていくことにつながると思う。 保健所では今後も現場に役立つ講演会を企画・実施し、地域の感染対策の向上を目指していく。

※西多摩感染症週報 令和7年7月17日に疥癬対策を掲載（一部抜粋）。

2025年 第28週 7月7日～7月13日

西多摩保健所感染症週報

東京都西多摩保健所
Tel 0428-22-6141



- *管内の発生動向及び定点把握対象疾患*** ()は内訳又は前週値
- 全数届出の疾患は、腸管出血性大腸菌感染症9件（1～4歳2件、10代1件、40代1件、50代1件、60代1件、70代3件）、梅毒1件（50代男性）、百日咳10件（5～9歳2件、10代5件、40代2件、60代1件）の発生がありました。
 - 定点報告は、伝染性紅斑は1.00（0.75）で前週より増加し、昨年より多い状況が続いています。
- *管内の感染症集団発生状況*** ()は内訳
- 新型コロナウイルス感染症1件（医療機関）、疥癬2件（高齢者入所施設2件）、不明熱1件（高齢者入所施設）の報告がありました。

今週のトピックス

～ 疥癬（かいせん） ～ 施設等で1人でも発生したら保健所へ一報を！

〔管内の発生状況〕

西多摩保健所管内では、疥癬による集団感染が毎年発生しており、2023年は4件、2024年は7件、2025年は第28週（7/7～7/13）までに5件となっており、高齢者施設等から報告が来ています。

〔疥癬について〕

- 疥癬は、ヒゼンダニが皮膚の最も外側の角質層に寄生して起こる感染症です。通常型と角化型の2種類があります。
- 潜伏期間は1～2か月と長いです。感染経路は、人と人との接触感染がほとんどです。
- 確定診断は、検鏡でヒゼンダニの虫体や虫卵、卵の抜け殻等を検出することですが、検出率は60%前後で皮膚科医でも診断が難しいです。
- 治療は、ヒゼンダニを殺すことを目的とした飲み薬や塗り薬があります。また、かゆみに対してはかゆみ止めの内服薬を用います。

	通常型	角化型
ヒゼンダニの数	数十匹以上	100万～200万匹
患者の免疫力	正常	低下している
感染力	弱い	強い
主な症状	赤いブツブツ（丘疹、結節） 疥癬トンネル	厚い垢が増えたような状態 （角質増殖）
かゆみ	強い	不定
症状が出る部位	顔、頭を除いた全身	全身



感染対策の基本は
流水とせっけんによる
手洗いです！

〔感染拡大予防のために〕

- 集団感染源となりうる角化型は、自覚症状は軽度か無い場合もあります。さらに認知症等の高齢者では症状を訴えることも難しいと考えられます。
- 1ケア1手洗いが感染拡大防止対策の基本です。
- **日頃から、皮膚の観察**をしっかりと行い、疥癬の疑いがある場合は、**早期に皮膚科を受診**しましょう。
- 施設や医療機関等で感染を広げないためには、疥癬が発生した場合、**施設や医療機関等の間で情報を共有**し、感染力の強い**角化型の患者を早期に発見し、治療につなげる**ことが大変重要です。

※さらに詳しい情報は下記のサイトを御覧ください。

東京都多摩区川保健所「地域ケアにおける疥癬対応マニュアル（第4版）」

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/shisetsu/jigyosyo/hokeniryo/tthc/information/2025/20250424>

国立感染症研究所「疥癬」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/380-itch-intro.html>